

令和5年度第3回山口県環境影響評価技術審査会議事録（要旨）

日 時：令和5年12月14日（木）15：15～16：15  
場 所：周南市長穂市民センター 大会議室（Web会議併用）  
出席者：委員9名、参考人（事業者）8名、事務局6名、  
オブザーバー5名

議事「（仮称）周南市長穂太陽光発電事業に係る環境影響評価準備書」について、事務局及び参考人（事業者）からの説明の後、以下のとおり質疑応答が行われた。

- |          |   |
|----------|---|
| 委 員      | 最初に事務局からも説明があったように、今日は時間も限られているので、自主的な御発言のみの議論とさせていただきます。   |
| 委 員      | 今日、現地を見せていただき、龍文寺の周りは、後世に伝えていくべき景観だと思ったが、そこは、(改変しない土砂災害警戒区域等)急傾斜地の範囲外も配慮されるのか。<br>龍文寺を訪れた方も厳かな景観を見たいと思うので、視察地点2までの間に、龍文寺の北東側に何本かあった木をなるべく残して欲しいが、どのように配慮されるのか。<br>反射光だけではなく、架台の裏側などが見えると気になるのではないかと思うがいかがか。 |
| 参考人(事業者) | 今日の視察資料3ページのとおり、龍文寺周辺は対象事業実施区域内に設定しているが、7ページのとおり、基本的に龍文寺周辺の樹林は残すような形で計画している。<br>また、道路の手前側の樹林が残るので、ちょっと透けて密ではないものの、太陽光パネルの架台についても、それが目隠しになるかと思っている。  |
| 委 員      | (土砂災害警戒区域等)急傾斜地の至近距離を開発されるが、今回の造成工事に関して、影響はないと判断してよいか。  |
| 参考人(事業者) | (土砂災害警戒区域等)指定区域の範囲は改変しない計画なので、基本的に影響はないかなと考えている。  |
| 委 員      | 農薬は使用しないということだが、肥料なども使用しないのか。   |
| 参考人(事業者) | 肥料等も使用せず、自然の植生に委ねるところ。  |
| 委 員      | 説明資料2の2ページあたりに、水の濁りの項目がある。河川やダムへの影響は、非常に軽微と考えられるものの、横から出てくる排水は、(浮遊物質量が)100を超過する値もある。河川の工事ではないし、河川内(の浮遊  |

物質量)もあまり上がらないため、ルール上問題ないとは思いますが、漁協等へは既に説明されたのか、今後説明する予定なのか、他に何かあれば教えていただきたい。

何も説明しなかった場合、知られ方によっては驚かれることもあると思うので、きちんと話しておかれた方がいいのではないか、というコメントである。

参考人(事業者) 調査前には、特別採捕許可等の許認可もあるため、漁協の方には、調査について説明している。

今後、工事前には、工事元請会社を選定し、その工事会社とともに、弊社の建設担当者が、工事の開始や内容を説明させていただく。

委 員 地下水についても独自に調べられていて、非常に分かりやすいと思った。説明資料の 31 ページの地質において、蛇紋岩や片岩など、一般的には何となく重金属が出てきそうな岩石だから、多分気にされて、地下水を調べたのではないかと思う。

建設残土としては、切土、盛土が±ゼロという話だが、一旦それを掘削して、元に戻すということなので、地質にもよるが、溶出試験か何かを 1 回ぐらいどこかでやっておいた方がいいと思うがいかがか。

参考人(事業者) すぐに回答できないので、また検討していきたい。

委 員 せっかく地下水について気にして調べているので、溶出試験も実施できれば、住民の方々にも大丈夫ですよ、という説得力があるかなと思う。

委 員 準備書のあらかし 23 ページの植生調査については、詳細に実施されており素晴らしく、樹木などもよくまとまっていると思うが、山野草の記載はない。山野草については、あらかし 22 ページの表にある「確認された主な重要種」がレッドデータブックなどに記載されている絶滅危惧に該当するものかと思う。レッドデータブックにも環境省や各県のものなどがあるが、表に記載の重要種が、説明資料 42 ページの（保全対策を実施する）植物と一致していなかったため、詳細に種を確認した。

あらかし 22 ページの表にあるムヨウランは、環境省のデータベースは別として、京都府のレッドデータブックでは絶滅寸前の種とされており、広島県でも自生地があり保護されている植物であることから、ムヨウランが周南地域でも確認されているのは、割と重要なことかなと思っている。そう見ると、今日の説明では、ムヨウランではなく、あらかしの表に記載のないカヤランを重点的に救い出し、他の場所に移植して保全しようということだったが、そのあたりの矛盾を少し感じたので、もう一度しっかりと生育地の保全又は保全できない場合の移植を行うに当たり、植物を厳選された方がいいのではないか。

参考人(事業者)	<p>あらまは、紙面の関係上、かいつまんでの記載となっており、申し訳ない。</p> <p>準備書等では、基本的に、現地調査を行い、その中で重要種としてレッドデータブック等に挙がっているものは何があるのかを整理し、どこに分布しているのかを位置でお示ししている。</p> <p>それと、対象事業実施区域を重ねたときに、全地点が潰れてしまうのか、10ヶ所のうち1ヶ所だけ潰れてしまうのか、改変区域外での確認で生育地が維持されるのか、といったような形で、影響のあるなしを予測している。生育地がほとんど潰れてしまうような場合に、移植というような、保全措置を考えており、そちらが本日の説明資料にあるキンラン、カヤラン、ウメガサソウ、ヨシノアザミといった4種類となっている。ムヨウランは、あらましの中に代表的な種として掲載させていただいたが、こちらは生育地が残るものと予測しており、保全措置はしない計画のものとなる。</p> <p>生育地がその後残るのに移植してしまうのは、移植先で生育していけるかどうかというリスクがあるので、生育地が残り、改変されないのであれば、今のままそっとしておくのが一番いいかなというところで、保全対策としては、移植の選択肢はしていない状況となっている。</p>
委員	<p>承知した。</p>
委員	<p>私自身も自宅に太陽光発電があり、個人レベルで終わった後の処理は難しい問題だが、これだけ広く太陽光発電事業をされていると、運用期間が終わり、もし撤去する場合、廃棄や再利用などのルートは確立されているのか。</p>
参考人(事業者)	<p>廃棄処分に関しては、法に定められた基準があり、産業廃棄物として処理するよう金額は積み立てているため、しかるべき対応を行う。</p> <p>事業期間が20年～30年ということで、その後リユースか、リサイクルかというところは、これからの技術の進歩を注視していきたい。</p>
委員	<p>クマのことが気になるのだが、この準備書を作成するに当たっての調査年次は、昨年になるのか。今年のように異常にクマが出没する状況は、かなり珍しいため、昨年、一昨年に調査していても、今年のような状況は、おそらく予測できない。今年、クマがこのあたりでどうだったのかな、というのは非常に気になる。</p> <p>また、いわばかく乱されたところを、無農薬でそのまま自然に任せていくと、一時的には、例えばクマの餌になるキイチゴなどが繁茂し、そのまま放置すると、やがて森林になると思う。ただ、メガソーラーとしては、手を入れる必要があるだろうから、最終的にクマの生息地として不適な状態にもっていくのか、適した状態にもっていくのか、そこまで考えて、計画されるのかどうか。周辺住民も、やはりクマのことを気にされると思う。</p>

参考人(事業者) 調査時期は、準備書【非公開版】613 ページに一覧があり、ほ乳類の場合、令和4年4月から令和5年1月に実施しているため、昨年度1年間となっている。年変動等でイレギュラーなケースもあるが、どうしても1年間の短期間の調査では仕方がない面もあるところ。

なお、小型の哺乳類は全て防ぎきれないかもしれないが、フェンス等を設置することにより大型ほ乳類は入ってこないような計画になっているので、基本的には発電所内をクマが利用できないような形になると思う。

委 員 当然、イノシシも入ってこないということか。

委 員 先ほどと関連するが、予測・調査の精度は、いろいろあるとは思いますが、これまでの事業者の御経験上、それが外れてしまうという場合もあると思う。絶滅危惧種に該当するようなものについては、予測の範囲内に収まらない場合もあるので、少し広めに保全を考えた方がいいかなというのが私のスタンスだが、そのあたりはいかがか。

参考人(事業者) 基本的に、予測の不確実性がある場合は、事後調査を行っていくという流れになってくるかと思う。移植した植物が活着するかどうかは、予測不確実性があるのでモニタリングしていくというような流れが多いかと思う。

その移植した先で活着するかどうかは、ケースバイケースだが、もし段々減ってきてしまって、移植がうまくいかないといった場合は、さらなる保全措置を実施することになるかと思う。それは地元の専門家の方に助言いただいたりして、フォローしていくものと考えている。

委 員 私が申し上げたのはそうではなく、最初から少し枠を広げて絶滅危惧種の保全をした方がいいのではないかということである。予測の範囲内でやりますということではなく、この事業区域内に絶滅危惧種があった場合には、最初から保全するつもりで考えた方がいいのではないかと思って発言した。例えば、ムヨウランというのは光合成しない植物だとされているが、いきなり移植するのではなく、モニタリングでもしっかりやった方がいいのではないかということになる。我々の予測の範囲内でこの4種しかやりませんっていうのは、少し乱暴な言い方のような気がしており、このプレゼン資料を見ると、そういうふうに取り出れるかなということでも発言した。

参考人(事業者) 少し検討する。

委 員 ちなみに、この移植をする、というのは移植先を決めているのか。

参考人(事業者) まだ、これからである。

地元の専門の方にヒアリングした際、移植先や移植作業に当たっても助言をすることは可能というお話を頂いているので、相談しつつ、生育適地を抽出していきたいと考えている。

委 員

ムヨウランも含め、よろしく願います。  
それでは意見も出尽くしたようですので、本日の議論は以上で終わりたいと思います。

(閉会)